

令和7年度 三重大学教育学部附属幼稚園 教育ビジョン



附属学校園の共通教育目標

主体的、創造的に
生き抜く心豊かな
子どもを育てる

学校教育目標

心身ともに健康で 心豊かに
たくましく生きる子どもの育成

附属学校園のめざす子ども像

*正しいことや、美しいことを
求め、粘り強く行動する子ども
*お互いを大事にし、高め合おう
とする子ども

めざす幼稚園像

全教職員でひとりひとりの子どもの
成長を見守る

- ・安全で安心して生活できる幼稚園
- ・豊かな自然環境の中で四季を感じられる幼稚園
- ・家庭、地域に信頼され愛される幼稚園

めざす子ども像

自分で考え判断し、行動する子ども
興味があることを見つけ、とことん遊び込む子ども

明るく健康で
豊かな心情をもち
友達と考え合って
のびのびと活動する 子ども



めざす教師像

自己の力量を高め、子どもの理解と援助の在り方を
常に追求する教師

- ・保育に対する情熱と使命感にあふれ学び続ける教師
- ・自身の教育（保育）観、仕事に対する自信と柔軟性を持ち、同僚を尊重し、協力しながら仕事を進めていこうとする教師
- ・豊かな人間性をもつ教師



重点目標

健康なこころとからだの育成

- * 基本的な生活習慣・生活態度の育成
- * 身体感覚、豊かな感性の育成

保育環境の充実

- ・安心で安全な保育環境の構成
- ・「やってみよう」を引き出す魅力的な環境の構成
- ・季節や自然の変化を感じられる環境
- ・幼児理解とねらいを意識した環境の構成

学部・附属学校との連携

- ・学部との連携授業の推進
- ・四附学校園一貫教育、連携活動の推進
- ・幼小接続・架け橋プログラムの推進
- ・特別支援教育の充実

適切な援助

- ・幼児理解と発達を踏まえた適切な援助
- ・幼児の視点に立った共感、承認による一人一人への温かなかわり
- ・PDCAサイクルによる保育の実施と振り返り、評価の実施

「遊び込む」子どもの育成

- * 「心が動く経験や遊びを通して意欲、好奇心、探究心、試行錯誤、粘り強く取り組む力等を育成する
- * 自己肯定感を育む

人とかかわりの中で心豊かに育つ子どもの育成

- * 人への親しみ、信頼感の育成
- * 表現力やコミュニケーション能力、協同性の育成

家庭との連携

- ・日々、子どもの様子を伝える、情報の共有
- ・ポートフォリオ、クラスだより等で園生活や活動の目的等を伝える
- ・共に子どもを育てる意識の共有

教職員

- ・幼児理解と発達を意識した援助
- ・研究の推進～「やってみよう」がにつながる保育～
- ・同僚性の向上

- ・情報の共有
- ・記録と発信の工夫
- ・保育内容の精選と充実・教材研究の推進

地域 家庭

- ・安心・安全な園づくり
- ・開かれた園づくり
- ・子育て支援・預かり保育
- ・家庭・地域との連携

重点目標

重点目標	下位項目	具体的な手立て・成果と課題
健康なこころとからだの育成	＊基本的な生活習慣・生活態度の育成 ＊ 身体感覚、豊かな感性の育成	<p>○ちょうちょの門や昇降口での挨拶を教職員から積極的に行う。子ども一人一人の様子を見ながら、前日から今日に気持ちをつなげられるような適切な声掛けや保護者への声掛けを行った。少しずつ子どもや保護者の方から挨拶をしてくれるようになってきている。また登園時間を守って登園できるようきめ細かく声掛けをしていくようにしたり、迎えの時間の入力（預かり保育利用者）、欠席連絡等も丁寧に対応していった。</p> <p>○年間を通して「ニコニコタイム」を実施し、登園後全園児で園庭に出て体操をしたり、自然に触れて遊べるような場を作るようにした。学級全体での活動の中でも園庭での遊びを取り入れたり、午後は全員が園庭に出る機会を意図的に作ったりした。室内遊びを好みがちな幼児も戸外遊びの楽しさを感じることができるようになってきている。</p> <p>○保育環境の充実ともかかわり、「やってみたい」という意欲をもち遊びに向かうことが出来た。四季折々の自然に触れ、好奇心を膨らませて自ら環境に関わって遊ぶ姿が多く見られた。</p> <p>▲生活習慣面において、クラス間、学年間の共有連携が取れていないことが明らかになってきた。次年度は目指す姿と幼児の実態を鑑み、3年間での育ちの見通しを持ち、保育内容と援助の在り方を検討し学年間の連携を行っていく。</p>
「遊び込む」子どもの育成	＊「心が動く」経験や遊びを通して意欲、好奇心、探究心、試行錯誤、粘り強く取り組む力等を育成する ＊自己肯定感を育む	<p>○目の前にいる幼児の行動、気持ちにできるだけ寄り添い、理解しようとする教師の姿勢を大事にしてきた。各担任は幼児理解の上に立った「心が動く」環境の構成やかかわり方を模索、工夫してきた。また幼児の発達や状況、季節に応じたねらいの下、保育内容を精選し、保育をしてきており、根底には常に「子どものやってみたい」「夢中になって遊ぶ」姿を支えるという思いがある。</p> <p>▲各教員が上記の基本理念をもって保育を行ってきたが、保育について互いに共有し、話し合うことがなかなかできなかった。それぞれの教員の業務量が多いことや預かり保育があることなどから時間が確保しづらい状況にある。次年度は情報共有と話し合いができる時間を確保できるように工夫していく。</p> <p>▲研究テーマである「やってみたい」を念頭に各教員が実践を重ねた。実践に対する考察を行い、研究までつなげていくこととそれをまた実践に活用する、実践と研究の往還の部分や何が「やってみたい」につながったかの検証が不十分だったと思う。</p>
人とのかかわりの中で心豊かに育つ子どもの育成	＊人への親しみ、信頼感の育成 ＊表現力やコミュニケーション能力、協働性の育成	<p>○特に1学期は担任との信頼関係の構築に努め、一人一人を丸ごと受け止め理解しようとすることを通して温かな関係を作ることを中心とした。保護者に対しても同様に良い関係を築けるようにした。次第に周りの友だちへの興味関心が芽生えてくる時期には、幼児同士の関係を見守ったり、教師も交えて一緒に遊ぶ等し、教師が仲立ちとなって互いの思いに気づけるようにしていった。トラブルでは幼児が納得できるような方向を探るとともに保護者にも丁寧に伝えるようにした。友だちへの興味関心は強いが、協力したり仲良く遊んだり団結できる時ばかりではない。友だちの気持ちに気づいたり、想像したりすること、自分の気持ちを表現したり調整したりすることの両方を遊びや生活の中で経験しながら心豊かに成長してほしい。</p> <p>▲幼児の心の育ちに関して、幼稚園教育では特にこの心の育ちである心情・意欲・態度を育成することを大切にす。目に見えない力を豊かに育むためには教員の資質向上、援助の在り方のレベルアップ、保育の質の向上が欠かせない。各教員の更なる資質向上が今後の課題である。</p>

目標達成のための手立て

項目	内容	具体的な手立て・成果と課題
保育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・安心で安全な保育環境の構成 ・「やってみたい」を引き出す魅力的な環境の構成 ・季節や自然の変化を感じられる環境 ・幼児理解とねらいを意識した環境の構成 	<p>○教員による毎月の安全点検と業者による点検により、安心、安全な保育環境を保つように心掛けた。</p> <p>▲園庭遊具、保育施設において老朽化による危険箇所も散見される。修理ができる部分はできる限り修理を行いつつ、大学への概算要求を提出している。</p> <p>○各担任が子どもの興味関心や発達、季節や時期、その時々状況に応じて保育環境を構成したり、その時のねらいや経験させたいことに沿って環境を構成した。実践の中で子どもたちが心を動かし、遊びに向かっていく姿を多く見ることができた。また子どもの興味関心に即応した丁寧な環境の構成は子どもたちの遊びを膨らませ、充実した遊びにつながっていった。</p> <p>○保育の中に季節を感じられる活動を取り入れたり野菜や花の栽培活動を行う等に取り組んだ。日常的に教師の言葉かけの内容においても季節の変化を感じられるようなことを取り入れている。</p>
適切な援助	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解と発達を踏まえた適切な援助 ・幼児の視点に立った共感、承認による一人一人への温かなかわり ・PDCAサイクルによる保育の実施と振り返り、評価の実施 	<p>○自身の担任するクラスの幼児についての理解を深め、日々の保育に活かせるようにし、毎週の週案立案時には発達を踏まえた援助ができるように検討した。</p> <p>○特に配慮の必要な幼児についての理解と援助については毎月の発達支援ミーティングにおいて共有することができ、どの教員も同じ方向の援助を心掛けることができた。</p> <p>▲上記の幼児理解と援助について、全員の幼児についての共有をなかなかすることができなかった。また非常勤の先生と共有する時間をとることが難しかった。</p>
学部・附属学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学部との連携授業の推進 ・四附学校園一貫教育、連携活動の推進 ・幼小接続・架け橋プログラムの推進 ・特別支援教育の充実 	<p>○学部との連携活動はこれまで積み重ねてきた活動に加え80周年記念事業として音楽教育講座の森川先生に歌を作っていただいたり、保健体育講座後藤先生に体操を作っていただいたりした。また80周年記念に音楽教育講座上ノ坊先生に歌を歌っていただいた。技術教育講座中西先生には記念品作成に力を貸していただき、学部の先生の多大なる協力の下、周年事業を行うことができた。</p> <p>○附属間の連携活動、一貫教育もこれまで重ねてきた実績の上に更に活動を行うことができた。一貫教育においては幼稚園が主幹校であり、各委員会での今年度の成果と課題をポンチ絵にまとめることに取り組んでいる。一貫教育については中期目標にも挙げられており各自が高い意識を持って取り組んでいくべきことであるが、開始から13年が経過し、取組の目的が共有されなくなってきたことやモチベーションが低下傾向にあるように感じる。今一度附属学校全体の意識を高めていきたい。</p> <p>▲幼小接続については交流活動、参観、引継ぎにとどまり、互いの幼児児童について話し合い相互理解を深め、カリキュラムを作成するところまで至っていないことが大きな課題である。</p> <p>○毎月1回園内で行う発達支援ミーティングには企画経営室の発達支援担当教員にも参加してもらい、園児の様子について理解と援助の方法について深めることができた。</p>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、子どもの様子を伝える、情報の共有 ・ポートフォリオ、クラスだより等で園生活や活動の目的等を伝える ・共に子どもを育てる意識の共有 	<p>○登降園時やスマイルタイムを利用して保護者に園での幼児の姿を伝えるとともに保護者の困り感を共有して一緒に考えていく姿勢でかかわることができた。</p> <p>○ポートフォリオやクラスだよりでの発信も積極的に行った。内容や頻度については担任間で差があり、そこは精査するに至っていない。</p> <p>○保護者と園が子どもを真ん中にしてより良い子育てを考えられるよう今後も取り組んでいく。</p>

目標達成のための手立て

項目	内容	具体的な手立て・成果と課題
教職員	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児理解と発達を意識した援助 * 研究の推進 ～「やってみたい」がつながる保育～ * 同僚性の向上 * 情報の共有 * 記録と発信の工夫 * 保育内容の精選と充実・教材研究の推進 	<p>○毎月の発達支援ミーティングでは、支援を要する幼児についての理解と援助についてクラスを超えて話し合うことができ、保育の場での援助に役立っている。本来ならば全幼児について全教員で行うことが必要であるが、そこには至らなかった。非常勤職員との情報共有の時間をとることが困難であり、齟齬が生じることもあった。次年度は教員間での情報共有について工夫していきたい。</p> <p>○研究については、毎月各担任が事例をあげ、「やってみたい」について検討を重ねていった。11月の公開保育研究会では研究報告を出すことができた。一方で事例の内容や協議について更に深め、見直していく必要があると思われる。話し合いを重ね、質の高い保育につながるよう取り組んでいく。</p> <p>○それぞれの教員が自身のすべきことに真摯に取り組み、子どもと向き合って一生懸命保育に取り組んだ。日常の業務の多さから教員同士が日常的に保育について話す機会が少なくなっており、3年間の発達の見直しをもって保育内容を計画し、月・週の指導計画を立案することが今年度の課題である。これは保育内容の精選、教材研究についても同様である。環境の構成について相互に見合い協議する場も今年度はなかなか設けられなかったので次年度の取組として計画的に入れていくようにする。</p> <p>▲日常的な幼児の様子が発信ではポートフォリオが役に立ち、保護者も興味をもって見てくださっていた。しかし表面的な姿の発信にとどまりがちになっていたのではないかと反省する。日々の幼児の姿をしっかりとらえ援助に活かすためには、丁寧な見取りと深い理解、教師自身が幼児の行動の意味を考えることが必要であり、そういった意味でも考えを文章にすること、教師の考え、園の方針を丁寧に伝えていくことが大切であると考えている。</p>
家庭地域	<ul style="list-style-type: none"> * 安心・安全な園づくり * 開かれた園づくり * 子育て支援・預かり保育 * 家庭・地域との連携 	<p>○毎月安全点検を行い、園庭や保育室を全教員が点検を行った。また附属学校園の安全衛生委員会において毎月職場巡視を行い、管理棟も含めて危険箇所等の点検を行った。園庭遊具では特に木製遊具の修理が多く、費用もかかるができるだけこまめな修理を行い、子どもたちが安心して安全に思いきり遊べる環境を整えた。</p> <p>○育友会活動、保護者の委員会活動やボランティア活動が盛んに行われ、保護者が幼稚園の子どもたち、幼稚園の方を向いて協力的に動いてくださっていることを強く感じた。そのような活動を通して改めて園の考えや子どもに対する思いを伝えることもできた。今後もこのような機会を積極的につくり、保護者と園が共に子どもを育てていく幼稚園を目指していく。</p> <p>○預かり保育を希望する保護者は年々増加し、今年度は40名を超えた。保護者のニーズに応えることと同時に幼稚園として大切にしていることを伝え、子育ての楽しさや子どもの姿を捉える視点、それを楽しむことを伝えていきたいと考えている。また子育ての中での悩みや辛さも出せるような関係性を育んでいきたいと思う。</p> <p>○未就園児の会（コアラの会）では保護者ボランティアの力も借り、20組の未就園児親子と年間15回の会を行うことができた。未就園児の時期ならではの悩みがあり、それを保護者ボランティアや教員が聞くことも多かった。学生、保護者、教員、大学教員、ボランティア等、いろいろな立場の人たちが思いを出せる場となった。未就園児の会で計画していた「お母さんたちの勉強会」はなかなか実施に至らなかった。</p>

連携活動

	小学校	中学校	特別支援学校	大学
1	5月 教員 幼稚園相互参観と協議	5月～6月 全園児 4回 中学校3年生との交流	7月 保護者（園児） 野菜販売	家政教育講座 学生参観、行事の補助
2	7月 教員 生活科の授業参観	9月 園児 中学校体育祭練習等の見学	12月 全園児 クリスマス関係	幼児教育講座 水津先生 学生 年少組 親子活動企画、実施
3	8月 教員 小 夏季研修会参加	10月～11月 全園児 4回 3年生との交流活動 ②	2月 全園児 節分関係	理科教育講座 伊藤先生 星を見る会 開催
4	10月 年少・年長児 園外保育で附属小学校校庭で遊ぶ		3月 年長児 卒園記念のいちご狩り	幼児教育講座 吉田先生 学生 人形劇観劇 2回（全園児）
5	11月 教員 幼稚園の研究会にパネリストとして登壇		* 育友会主催Tシャツ・トート バッグ制作	幼児教育講座 富田先生 学生 「よるのようちえん」コーナー企画
6	11月 教員 附属小学校公開研究会にて生活科の研究協力者として参加			保健体育講座 後藤先生 年長組 親子活動
7	11月 教員 生活科の授業参観			理科教育講座 國仲先生 年長組 親子活動
8	2月 年中児 3年生 小学校3年生児童と年中児の交流活動			技術・ものづくり教育講座 中西 先生 学生 80周年記念キーホルダー焼印体験（年長児）
9	2月 教員 小学校1年生担任団が年長児の様子を参観			保健体育講座 岡野先生加納先生 年中組 親子活動
10	2月 教員 生活科の授業参加、協議			国語教育講座 林先生 年長組 筆体験
11	3月 年長児 1年生 小学校での交流活動			幼児教育講座 富田先生 コアラの会
12	3月 年長児 5年生 小学校での交流活動		理科教育講座 平山先生 「ドングリ博士」として年中組 の子どもたちと園庭散策	音楽教育講座 森川先生 上ノ坊 先生 保健体育講座 後藤先生 80周年記念体操の歌と体操作成
13	3月 年長児担任と1年生担任 引継ぎ		美術教育講座 上山先生 年少組 「粘土で遊ぼう」	幼児教育講座 他 卒業論文等の研究協力